



愛知工業大学 愛知工業大学情報電子専門学校 愛知工業大学名電高校 愛知工業大学附属中学校

目次:

設置校卒業式	1
自由ヶ丘を増築	2
理事長年頭挨拶	3
学園表彰	4
スノーピーロポ	4
設置校で入試	5
企業展に熱気	6
県警から感謝状	8

発行所
名古屋電気学園
〒470-0392
豊田市八草町八千草1247
Tel (0565) 48-8177

設置校四校で卒業式

学園の各設置校の卒業式は、三月一日の愛工大名電高校を皮切りに、十六日の愛工大附属中学校、十九日の愛工大情報電子専門学校、二十三日の愛知工業大学と、順次行われました。卒業生たちは、後藤泰之理事長や校長から贈られたはなむけの言葉を胸に刻み、懐かしい校舎を巣立っていきました。

大学は千三百六十一人に学位記授与



謝辞を述べる高橋聡さん

大学の卒業証書・学位記授与式は八草キャンパス鉦徳館で行われ、合わせて千三百六十一人に後藤泰之学長から授与されました。博士の学位を取得した八人に学位記が一人ずつ手渡

されたのに続き、修士の学位記が工学研究科修士生五十人と経営情報科学研究科修士生三十一人の各総代に、学部生に対する卒業証書・学位記は工学部八百七十三人、経営学部八百七十七人、情報科学部二百十二人の各代表にそれぞれ授与されました。

後藤泰之学長は、式辞の中で「昨今、耳にする様々な『分断』を人々が乗り越えて共に発展していけるよう、本学の建学の精神(『自由・愛・正義』)と教育の motto(『創造と人間性』)の意味をもう一度考えていただきたい」と語りかけまし

た。これを受け、卒業生を代表して高橋聡さんが「自身のより一層の向上に努め、愛知工業大学卒業生としての自覚と自信を持ち、社会に貢献いたします」と謝辞を述べました。

高校は五百九十四人卒業



答辞を述べる平田聖尚君

名電高校の卒業証書授与式は若水キャンパス鉦徳館で行われ、科学技術科百五十人、情報科学科三十九人、普通科四百五人の合わせて五百九十四人が学び舎を巣立ちました。

岩間博校長が各科・コースの代表に卒業証書を手渡し、式辞の中で「誰でも自

らの輝ける力を高めていくことができる。乗り越えるべき課題と向き合ったとき、多くの間違いや失敗、あるいは自分と異なる見方や考え方の中にこそ答えを見出すヒントがある」と語りかけました。

卒業生を代表して普通科の平田聖尚君が答辞を述べ、部活などを振り返って「ひたむきに努力する仲間が近くにあったから、自分はここまで来れた」と感謝の心を語りました。

中学は百十六人が巣立つ



答辞を述べる久野遥介君

附属中学校の卒業証書授与式は淳和記念館で開かれ、百十六人が卒業しました。卒業生を代表して浅野太介君が岩間博校長から卒業証書を受けました。岩間校長は、式辞の中で二月に行われた合唱祭を振り返り「良き仲間と共に歩みを進めていきましょう」とはなむけの言葉を贈りました。



謝辞を述べる大西瑞樹さん

後藤泰之理事長も挨拶で「目標をしっかり意識し、徹底的に準備を」と語りかけました。これに応え、久野遥介君が「仲間がいれば道は開かれることを学びました」と答辞を述べました。

専門学校から九十六人

専門学校の卒業証書授与式は同校四階大教室で行われ、九十六人が卒業しました。代表の坂口健也さんに稲垣慎二校長から卒業証書が手渡されました。稲垣校長は「一層の研鑽努力を積み、社会の発展に貢献できるエースになられることを」と式辞を述べました。

後藤泰之理事長も「知識・技能を積極的に吸収し、社会に貢献し続けてください」とはなむけの言葉を贈りました。卒業生を代表して大西瑞樹さんが「ここでの学びと経験に自信を持ち、それぞれの道へ踏み出します」と謝辞を述べました。

自由ヶ丘キャンパス増築工事始まる

学園は、手狭になってきた自由ヶ丘キャンパスの教育環境を整えるため、増築工事に着手しました。九月末に完成し、後期の授業から利用を始める予定です。

増築する校舎は鉄筋コンクリート造三階建ての一棟で、延べ床面積一二五三・六三平方メートル。自由ヶ丘キャンパス南西隣の用地を名古屋市から借り



新校舎の内観イメージ
(学生自習スペース)



新校舎の完成予想図



玉串奉奠で安全祈願する後藤泰之理事長

て建設し、既存キャンパスとは渡り廊下でつながりません。キャリア支援や学習支援を行う学生支援フロアをはじめ、ゼミ室や多目的室、自習室などを設けます。

昨年十二月二十日、建設予定地に後藤泰之理事長ら学園、大学、施工関係者の四十人が出席して地鎮祭が営まれました。後藤理事長と岩川千行・清水建設専務執行役員名古屋支店長による穿初之儀(うがちぞめのぎ)、玉串奉奠などの神事で安全を祈願した後、後藤理事長が「学生が活動しやすい施設にして、経営学部の新しい情報を発信していきたい」と挨拶を述べました。

第十回A-I-Tテクノサロン

「これからの付加価値創造」をテーマに

大学総合技術研究所社会連携室は昨年十二月二十一日、本学と連携協定を結ぶ大垣共立銀行、豊田信用金庫の協賛を得て、本山キャンパスで第十回A-I-Tテクノサロンを開催しました。「これからの付加価値創造」をテーマに、経営学部の三教授がそれぞれの研究シーズについて話題を提供しました。

地域の企業経営者ら約五十人が参加し、初めに鈴置保雄・総合技術研究所長が「経営学のシーズを工科系のものづくりと絡め、より高めた産学連携について情報交換ができれば」と挨拶しました。



製品品質の向上と生産効率化の向上について話す田村隆善教授

一件目の話題は、小林富雄教授による「食品ロスと世界のフードビジネス」。食品ロスの問題が国際的に取り上げられてきた背景や、ロスが発生するメカニズムについて説明し、この問題に取り組むイギリス、香港、韓国、フランスの施策などを紹介しました。続いて田村隆善教授が「製品品質の向上と生産効率化の向上について」と題し、日本の産業の競争力と問題点、生産管理をうまく進めるためのシステムの設計と運用などについて解説しました。最後に後藤時政教授が「『ものづくり』と『価値づくり』による付加価値の創造」と題し、企業にとって「ものづくり」と両輪をなすべき「価値づくり」について、産学連携にも価値獲得できるビジネスモデルが必要であることなどを話しました。

九十七人が卒園
姉妹学園・あいわ幼稚園(名古屋市中東区)の卒園式は三月十七日に開かれ、九十七人が楽しく過ごした園舎を巣立ちました。お祝いで着に身を包んだ子どもたちは一人ずつ名前を呼ばれ、後藤泰之園長から修了証書を受け取りました。後藤園長から「幼稚園で学んだことを忘れず自信を持って小学校に行ってください」と励まされ、全員声をそろえお礼を述べました。
四十二人が国公立大合格
名電高校の今春の国公立大合格者数は四十二人で、地元の私立大も含め、理工系や医薬系の一般入試は例年以上に厳しい結果となりました。しかし、今年度は大学入試センターの得点と面接・小論文等により選抜するセンター利用型推薦入試で愛知教育大に四人、名古屋大(医学部・保健)と名古屋工業大に各一人合格しました。岩間博校長は「三年生まで部活動を続けながらセンター試験に挑戦し、その結果を基に第一志望の国公立大に合格した生徒が多かったことは大きな成果といえる」と話しています。

後藤理事長が年頭の挨拶

平成三十年の仕事始めにあたり、後藤泰之理事長は一月六日、八草キャンパスと若水キャンパスで年頭の挨拶をしました。十八歳人口が減少期に入る二〇一八年問題の当該年を迎え、あらためて全教職員の結束を呼び掛けました。専門学校でも一月九日に稲垣慎二校長が年頭の挨拶をしました。

挨拶要旨

■八草キャンパス■

「二〇一八年問題」のいよいよその年となり、十八歳人口が減少期に入りま



年頭挨拶で教職員の結束を呼び掛ける後藤泰之理事長

す。既に40%の私学が定員割れし、20%ぐらいの私学法人が経営難に陥っています。昨年、大学は新たに

一五五〇人の学生を迎えました。本学に入りたい生徒がたくさんいたのは喜ばしいことである反面、学生のケアも含めて文科省にたくさん資料を提出しなければならなくなりました。本来、受ける予定だった認証評価を一年先延ばしにし、対応することにしました。

問題は、今後たくさん

れませんが、ある意味、レベルの高い学生を得るチャンスでもあります。優秀な学生をきちんと育て、自分たちの望む企業に就職させる。それが本学に求められる使命であり、この先も残っていく大学ということなのかと思っています。

■若水キャンパス■

問題は、今後たくさん

の学生を取れず、減収になるということです。これからの数年、建物をいろいろと計画し、設備等も考えていきましたが、ちよつと待てよという状況になりました。少し皆さんが我慢する期間が、これから三年、あるいは五年くらい必要かと思っ

ています。とりあえずの目標として、まず非常勤を減らしていくと検討しています。学生はたくさんは取

れませんが、ある意味、レベルの高い学生を得るチャンスでもあります。優秀な学生をきちんと育て、自分たちの望む企業に就職させる。それが本学に求められる使命であり、この先も残っていく大学ということなのかと思っています。

■専門学校■



挨拶する稲垣慎二校長

二〇一八年、いよいよ問題の年になりました。大学の危機は、ひいては専門学校にもずしりとのしかかってくるということです。

ACE（愛知工業大学情報電子専門学校）は平成三十三年に豊田市に土地を返還するということが、理事長先生のご判断で五年間とりあえず延長し、学科の再編を行って大学とのパイプをつけながら、設置学校四校の繁栄につなげる方針となりました。

ACEの強みは資格取得、それから就職、そしてもう一つが愛工大への編入学です。これをスムーズに長く続けていくため、新しいアイデアを出して未来へつなげたいと思っています。



2月26日の交付



2月6日の交付

後藤すゞ子先生奨学金
学園は二月六日と二十六日、「後藤すゞ子先生奨学金」をそれぞれ工学部の学生に交付しました。奨学金は元学園長の後藤すゞ子先生の遺志に基づいて設けられ、親の死去、失職など思いがけない理由で学資の負担が難しくなった設置校の学生、生徒が学業を継続できるように支援するものです。交付は八草キャンパス本部棟で行われ、後藤泰之理事長が奨学金の趣旨を説明して保護者に手渡ししました。学園、大学の幹部も立ち会い、後藤理事長は学生に「しっかりと勉学に励んでください」と励ましの言葉をかけました。

大学レーシングカート部を学園表彰



後藤理事長を囲んで、部員たち

ット)で総合優勝を成し遂げた大学レーシングカート部に対する学園表彰が、二月二十日に八草キャンパス本部棟で行われました。

同選手権では、岡崎幹選手(機械学科二年)がYAMAHA-TIAクラス、夏目南斗選手(同)がFDオープンクラス、角谷昌紀選手(同)がYAMAHA-SSクラスで、それぞれ優勝を飾り、全クラス制覇で六年ぶり四回目となる総合優勝を決めました。

学園表彰では、後藤泰之理事長が山田章顧問、水野尚紀主将と、岡崎、夏目、角谷各選手に表彰状などを手渡しました。クラブ活動後援会からもお祝いが贈られました。

後藤理事長から「連覇を続けてほしい」と激励されたレーシングカート部は、山田顧問と水野主将が「これに満足せず次の結果に頑張りたい」と今後の活躍を誓いました。

豊田市からも表彰を受けるレーシングカート部では、このほか水野皓稀選手

(同一年)が昨年十一月にポルトガルで開催されたレーシングカートの世界大会「ROTA X MAX チャレンジシリーズ」グランドファイナル第十八回大会のMAXクラスに出場、並みいる強豪の中で七位に入る活躍をみせています。

この快挙を受け、岡崎、夏目、角谷、水野の四選手は、三月三日に行われた豊田市制六十七周年記念式典で表彰を受けました。その前日の三月二日、四選手は太田稔彦豊田市長を表敬訪問。市長からは「豊田市は



動画でレースの説明を受ける太田市長

スヌーピー展覧会のロボット制作

米漫画家チャールズ・M・シュルツ氏のコミック「ピーナッツ」の人気キャラクター「スヌーピー」の世界を心温まるサイエンスアートを通じて体験できる展覧会「スヌーピー・ファンタレーション」に本学が制作

協力しています。展覧会は三月一〜十九日の東京展(会場・松屋銀座)を皮切りに開幕しました。

同展は、生前のシュルツ氏と親交があったアーティスト大谷芳照氏(鈴鹿市出

身)が総合プロデューサーを務め、スヌーピーの世界とロボットなど日本文化の融合も特色としています。

本学からは、知的計測制御研究室(電気学科古橋秀夫教授)による等身大の「ロイドスヌーピー」、ロボットアート部の学生たちによる「ダンシングスヌーピー」、ぬいぐるみ風の「フアニースヌーピー」の計三種類のスヌーピーロボットを出展。このほかCGメディア研究室(情報科学科水



東京展のオープニングでテープカットする山田副学長(左端)

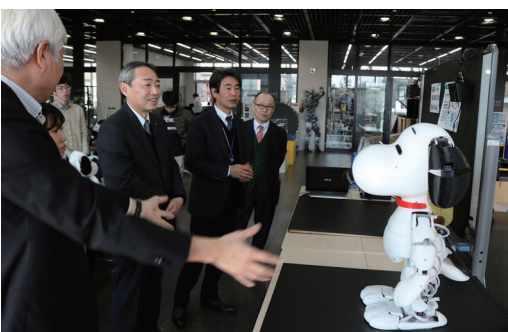
野慎士教授)も「不思議なスケッチブック」「マジックシャドウ」のインタラクティブアート二点を出展し

ています。

東京展のオープニングセレモニーでは山田英介副学長が出席し、挨拶とテープカットを行いました。

会場では、四十個のモーターを搭載して四足歩行や二足歩行を行うロイドスヌーピーや、切れ味のいいディスプレイの踊りを披露するダンシングスヌーピーなどに来場客の人だかりができ「かわいい!」と歓声が上がっていました。

同展はこの後、大阪展(四月十八日〜五月七日・大阪梅田阪急)、名古屋展(八



後藤学長に向けて行われたプレゼンテーション＝八草キャンパスのロボットミュージアムで

月十五〜二十七日・名古屋(高島屋)をはじめ、広島、北海道、沖縄など全国で開催される予定です。

設置校で入試

大学、名電高校、名電中学校の各設置校で、一月下旬から二月上旬にかけて入学試験が本番を迎えました。

大学

大学入試の前期日程は記述式のA方式が一月二十七、二十八日、マークセンス式のM方式が同二十九日の三日連続で行われました。試験は八草キャンパス、自由ヶ丘キャンパスのほか、豊橋、一宮、岐阜、四日市、津、浜松、静岡、富山、金沢、松本、岡山、福岡の十二地方会場で行われました。八



問題配布される受験生たち

草キャンパスでは早朝から受験生が訪れ、会場となった十号館、一号館の割り当てられた教室に入室。ピンと張りつめた空気の中で試

高校

名電高校の一般入試は二月七日に行われました。志願者数は普通科が三五二人の募集に対し三三九三人で倍率は九・六倍、科学技術科・情報科学科は二〇〇人の募集に対し四六六人で倍率は二・三倍でした。



自由ヶ丘キャンパスで



若水キャンパスで

一昨年度までは高校・中学の教室に加え体育館なども試験会場として使用していましたが、受験環境の均

中学

名電中学の入学試験は一月二十日に奨学生A・B入試、二十一日に第一回一般入試の日程で行われました。合わせて一〇五人の定員に対し受験者数は六六一人で、倍率は六・三倍でした。



試験前の説明を聞く受験生たち

二十日は午前八時の気温が二・八度と平年並みの冷え込みとなった中、受験する児童たちが保護者とともに訪れ、出迎える進学塾関係者から励ましの声を掛けられていました。児童たちは各教室で担当教諭の説明を受けた後、午前八時三十分から国語、理科、社会、算数の四教科の試験に真剣な表情で取り組みました。

高校吹奏楽部第五十三回定期演奏会



圧巻の演奏を披露した定期演奏会

ステージ・ドリルを次々と繰り上げました。

部員たちが台本からつくり上げたミュージカルステージ「オズの魔法使い」など多彩な内容の第四部では、会場と一体になった合唱も織り込み、活動のモットーである「絆」の強さをアピールしました。

同部は三月二十一日、横須賀市で開かれた全日本アンサンブルコンテストにも東海代表として出場し、見事に金賞に輝きました。

後藤杯卓球に一三四四人

第四十七回後藤杯卓球選手権大会《名古屋オープン》が一月十三、十四日、岡崎中央総合公園体育館で開催されました。中二以下のカデット、小六以下のホープス、小四以下のカブの各部男女に、全国から一三四四人が参加。開会式で、愛知県卓球協会の松原暁美副会長がピンポン外交に尽力した元日本卓球協会会長、元学園理事長の故後藤鉦二先生の業績を紹介し、子供たちは広い会場で二日間の熱戦を繰り広げました。

学園が主催する名電高校吹奏楽部の定期演奏会が一月九日、名古屋国際会議場センチュリーホールで昼夜二部にわたり開かれました。五十三回目となった今年には、後藤泰之理事長の挨拶に続き、全国最多四十回の出場を果たした二〇一七年度全日本吹奏楽コンクールの演奏曲目「宇宙の音楽」などを第一部で披露し、感動を新たにしました。プログラムは、伊藤宏樹教諭の指揮による四部構成。ヨハン・シュトラウスIIの喜劇『こうもり』序曲、オットリーノ・レスピーギの交響詩『ローマの松』より「アッピア街道の松」などの名曲や、勇壮な

愛名会企業展に最多の六八二社 就職活動が本格スタート 交流会や研究会も

■企業展■

学園の後援組織「愛名会」の会員企業が出展する学内企業展が三月五、六、七日の延べ三日にわたって八草キャンパス鉦徳館(体育館)で開かれ、来春卒業予定の学生らの就職活動が本格的に始まりました。

企業の高い採用意欲を反映して三日間計六八二社が参加し、昨年に続いて最多記録を更新しました。各日午前、午後の計六回開催され、愛知工業大学情報電子専門学校(愛名会)の学生も合わせ延



最多 682 社の熱気の中で行われた愛名会企業展

べ三七八〇人の学生たちが参加しました。開会式で津田紀生学長補佐・キャリアセンター長らが挨拶し、入場時間になるとスーツ姿の学生たちが次々と目当ての企業ブースを埋めました。

愛名会は平成九年に学園創立八十五周年記念事業の一環として発足し、この企業展を大学と共催しています。前年度は就職した学生一二一七人のうち四五九人が愛名会企業二四二社に入社を決めるなど本学の高い就職率を支えています。

また、一般求人企業の企業展も自由ヶ丘キャンパス(三月一日)と八草キャンパス(三月十三、十四日)で開かれ、就活解禁日と重なった自由ヶ丘の会場では軽音楽部による壮行演奏が行われました。

就活スケジュールは六月一日が選考活動解禁。昨年と同様、準備期間三カ月の短期決戦となります。キャリアセンターでは「売り手市場という恵まれた状況に甘んじず、しっかり準備したうえで進路を決めること

が大切になる。思うように就活が進まない時はもちろんのこと、進路選択に迷うことがあれば、一人で抱え込まず、就職担当教員やゼミの教員、そしてわれわれスタッフに相談してほしい」と学生たちに呼び掛けています。

■交流会・研究会■

三月の採用情報公開を前に、本学キャリアセンターは愛名会との共催による「U・イターン交流会」と愛知県産業労働部産業振興課との共催による「愛知ブランド企業研究会」を、それぞれ八草キャンパスAITプラザで開きました。

二月十四日の「U・イターン交流会」は、これまで三重県や静岡県などで開いていた「地元企業交流会」に代わり、学生たちの出身エリアである岐阜、静岡、東三河、三重、長野、北陸三県の優良企業が一堂に会する形で、初めて開催しました。

午前、午後の部に計六八社が参加。学生は延べ二九一人が、出身県を色別で示すシールを名札に貼って訪れました。学生たちは、それぞれの企業の競争力や

魅力ある取り組みについて説明を受け、地元で働くことについて認識を深めました。また、選択肢として「U・イターン」を考えるきっかけにもなっていました。



出身地企業などと交流を深めたU・イターン研究会

翌十五日の「愛知ブランド企業研究会」は、知名度や規模だけにとらわれない「企業を選択する力」を学生たちに身につけてもらうと、昨年に続いて二回目の開催となりました。午前・午後の部に計七〇社が参加し、学生は延べ五六四人が訪れました。

「オンリーワン」「シェアトップ」といった特長を持つ愛知ブランド企業各社の採用担当から、「モノづくりに対する独自の強み」や

「技術者育成へのこだわり」など、普段なかなか知ることができない企業努力の成果や取り組みについて説明があり、学生たちが熱心に耳を傾けました。

業界・業種を代表する企業二十社を迎えての「業界業種研究会」が一月二十日、八草キャンパスで開かれました。企業の採用情報が三月公開となるのに先駆け、メーカー、建設業、商社、金融、情報通信などの各業種について学生たちに理解を深めてもらう狙いがあります。参加者全員が企業の説明を確実に把握できるように、ラウンジにブースを設けた昨年までの形式と異なり、会場が十号館の各講義室に変更されました。

研究会は三部に分かれて実施され、学部三年生と院一年生を中心に、延べ七九八人が各企業に割り当てられた講義室に足を運びました。三月に入って開催される企業展の前哨戦でもあり、職種などを説明する各企業の人事担当者らにメモを手元に質問する真剣な姿が見られました。

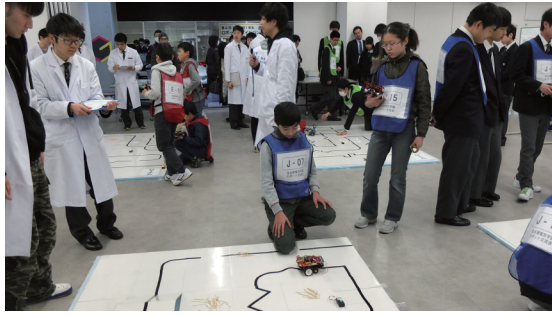


企業の説明を聞く学生たち

にぎやかにロボット交流会
競技会に五十チーム

愛知工業大学、愛工大名古屋高校、愛工大附属中、本山口ロボット教室で取り組んでいるロボット教育に理解を深めてもらおうという名古屋電気学園ロボット交流会が二月十七日、若水キャンパス淳和記念館で開催されました。

六回目となる今年は、交流会の柱である自律型ロボット競技会（レスキューコース）に小・中学生、高校生の計五十チームが参加。開会式の挨拶で後藤泰之学長が「ものづくりはチャレンジ精神が大事」と呼び掛け、早速、競技が始まりました。



自作機の性能を競った自律型ロボット競技会

被災地に見立て、年齢に応じて坂道などの難所が加えられた白色パネル上のコースで、子どもたちは自走する自作ロボットを真剣に見守り、目標（被災者）に到達するまでの得点を競いました。

競技会と併せ、大学で取り組んでいる数々のロボット研究の成果や高校生のA I Tサイエンス大賞エントリー作品を見学するブースツアーも行われ、参加した親子らが、からくり人形、災害救助シミュレーション、レスキューロボットなどのデモンストラーションを熱心に見て回りました。高校専門学科一年生によるロボットデザインコンテストも開かれました。

競技会の上位入賞チームは次の通りです。

- ▽自律型ロボット競技会【小学生】①ロボボファイター②K・T③MKH【中学生】①Akito②NIGHT Party③A I T村正【高校生】①meiden 迷探偵コンナン②AQUA③meiden

ロボカップジュニア
六十七チームで東海大会

二〇一七東海ブロック大会は昨年十二月九日に若水キャンパス淳和記念館で開催され、東海地区の予選を勝ち抜いた小中高生たちが自律型ロボットのプログラム技術とアイデアを競いました。サッカー、レスキュー、オンステージの三競技七種目に合わせて六十七チーム百四十九人が出場し、熱い対戦を繰り広げました。競技の結果、愛工大附属中の

名電高生が課題研究の成果を発表

名電高校専門学科の三年生たちが昨年十二月九日、グループで取り組んできた課題研究の成果を大学八草キャンパスで発表しました。多彩な研究内容を大学の教員に専門的に審査・指導してもらう高大接続事業で、情報科学科、科学技術科の生徒合わせて百八十九人が参加しました。

生徒たちが自主的に設定した研究テーマは計四十九に上り、バラエティーに富んだ内容です。電気、応用化学、機械、建築、土木工

チームがワールドリーグレスキューラインで準優勝するなど学園のチームも上位の成績を収めました。成績上位者は三月三十一日～四月一日に和歌山市で開催される全国大会に出場します。

各種目の一位と、上位入賞した学園のチームは次の通りです。

- 【サッカー】▽オープンリーグ ①佐藤碩恭・杉下直哉▽ライトウエイト ①野呂柚斗・白井涼▽ビギナーズ ①都竹陽太郎・平松

虎哲【レスキュー】▽ワールドリーグレスキューライン ①ATHSist②ガム飲んじやった（愛工大附属中一年 鈴木雅富・森康太郎）③meiden/c

himP（名電高一年 藤本優・村田浩基）▽日本リーグレスキュー ①チーム・ポラリス③スシコラ（愛工大附属中二年 後藤啓輔・岡井聡良）【オンステージ】▽ワールドリーグ

- ①kabuki time
- ▽日本リーグ ①チーム竹



研究成果を発表し、大学教員の指導を受ける生徒たち

学、情報科学の六学科に分かれ、グループごとに五十分程度の持ち時間で発表しました。中には審査に当たった教員から「大学生に聞かせてやりたいくらい」と高く評価されたグループもいました。

各学科の審査を経て優秀と評価された計六グループによる全体発表会は、一月十一日に高校喬徳館で専門学科の生徒たち全員の前行われました。

春高バレーで前年覇者を撃破

新春に東京体育館で開催された全日本高校選手権大会（春高バレー）に、高校バレーボール部が三年ぶりに出場しました。前回出場時のベスト4を上回る成績は残せなかったものの、二回戦で前年覇者の駿台学園（東京）を2-1で撃破し、全国的な注目を浴びました。



開会式で入場行進する高校バレーボール部

平均身長一八〇センチと前回出場時より高さが無い選手たちですが、的を絞らせない多彩な攻撃により、出場校中トップの平均身長一八八・八センチを誇る駿台学

園との体格差をはね返しました。崇徳（広島）と対戦した三回戦では第一セットを先取しましたが、残念ながら逆転負けを喫しました。

大会を振り返り、北川祐介監督は「川内商工（鹿児島）と対戦した一回戦をセットカウント2-0で勝ち、二回戦も今大会優勝候補の呼び声が高かった駿台学園を相手に、三年生を中心に持てる力を発揮し2-1で勝利しました。三回戦では、崇徳の堅い守備を破ることができず、1-

2で惜敗し、ベスト16で大会を終えました。今回の春高バレー出場に際しては、高校・中学の教職員・生徒をはじめ、多くの学園関係者の方々に応援をいただきました。バレー王国といわれる愛知県で予選を勝ち上がることは簡単ではありませんが、今後も全国大会上位を目指して生徒と共に練習に励んでいきたいと思えます」と話しています。

高校情報デザイン部に県警から感謝状



愛知県警生活安全部長感謝状を贈られた高校情報デザイン部

活動の一環として防犯啓発用の映像制作などに取り組んでいる高校情報デザイン部に対し、二月十五日、愛知県警生活安全部長から

編入学予定者を激励
専門学校から今春、大学に編入学を予定している学生たちが一月十五日、稲垣慎二校長の激励を受けました。編入学予定者は十四人で、このうち愛知工業大学に十三人が入りま

す。編入学先は経営学科経営情報システム専攻が四人、情報科学科コンピューターシステム専攻が三人、機械学科機械工学専攻と機械創造工



稲垣慎二校長の激励を受けた編入学予定者

学専攻が各二人、電気学科電気工学専攻と情報科学科メディア情報専攻が各一人となっています。他大学へは名古屋学院大学に一人が編入学します。

激励会では稲垣校長が「大学では相談相手をつくってください。時々こちらにも顔を出して近況報告を」と親身に話しかけました。

感謝状が贈呈されました。情報デザイン部は県警に協力し、子どものための防犯イベントで使われる3D映像や、YouTubeの県警公式チャンネルで見ることが出来る防犯少年団の活動事例紹介動画などを制作しています。さらに女性向け防犯ブザーの開発プロジェクトにも参加して若い感性を反映させています。

贈呈式は県警本部で行われ、情報デザイン部長の山田光さん（情報科学科三年）が鈴川信視・県警生活安全

遠隔地奨学生通知書交付
専門学校は昨年十二月二十日、遠隔地奨学生（後期）に対する奨学金決定通知書を交付しました。選考基準は「実家が県外もしくは通学に二時間以上経る者で前期の学業成績が各学年の三分の一以内」となっており、今回の対象者は四人です。三重県桑名市などから通学する対象者一人ひとりに稲垣慎二校長が通知書を手渡し、「就職や大学への進学に役立ててください」と激励しました。

部長から感謝状を受け取りました。

山田さんは「普段、私たちの作品をたくさんの人に直接見てもらうことがあまりないので、とても良い経験になりました。高校生が社会に向けて何かを発信するということはなかなかできないと思うのですが、愛知県警を通して社会貢献ができます、とてもうれしく思います。毎回とても楽しく活動させていただいているので、またお話があればぜひ取り組んでいきたいと思っています」と喜びを話していました。